

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494400045	事業の開始年月日	平成25年8月1日	
		指定年月日	平成25年8月1日	
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社			
事業所名	愛の家グループホーム綾瀬小園			
所在地	( 252-1121 ) 神奈川県綾瀬市小園320-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成30年10月10日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で、利用者様同士の人としての助け合いや気遣い、役割を持っていただき、楽しく笑って生活していただく為の支援を大切にしたいと考えています。外にでて、季節を感じ地域住民と交流しその人らしく生活していただける環境であるように努めてまいります。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年11月16日	評価機関 評価決定日	平成31年1月25日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、相鉄線「海老名駅」東口よりバスで「北原」バス下車、徒歩約5分の閑静な住宅地にあります。周囲には野菜畑もあり、自然環境にも恵まれています。建物は鉄骨造り2階建て、運営法人は介護福祉サービス事業を全国で展開しています。

<優れている点>

事業所では運営理念に沿い、利用者一人ひとりに向き合い、過度な支援を控え、できることを見守り、地域の人々とのふれ合いを大切に生活を支えています。医療機関と連携し、定期往診や看護師の健康管理が行われています。花見、納涼祭、クリスマス会などを開催し、地域住民や児童と交流しています。管理者のリーダーシップと職員間の連携により、運営に対する提案・解決の仕組みがあります。職員個別面談で待遇や勤務シフトを話し合い、働きやすい職場環境を構築しています。運営推進会議や事業所便りを活用し、利用者の生活の様子(医療、入浴、献立など)を伝え、アンケート調査も実施しています。介護職員の平均経験年数は6年以上で、利用者は安心して暮らすことができます。利用者は歌唱やぬり絵などで楽しみ、寛いでいます。

<工夫点>

事業所では社用車2台を所有し、外出や買い物などの個別対応をしています。脚力アップ体操で骨折予防に対処しています。調理専任職員を配し、介護職の負担低減を図っています。職員個々の経験・能力に応じた研修制度があり、スキルアップを図っています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム綾瀬小園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼にて唱和し、実践に繋がっています。	開設時から法人の運営理念を踏襲しています。利用者一人ひとりに向き合い、できることを見守り、地域の人々とのふれ合いを企画して積極的に支援しています。開設満5年の節目を迎え、事業所「独自の理念」を、全職員と話し合っって作成する意向です。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の外気浴や散歩にて近隣住民との挨拶や馴染みの関係性はできています。	自治会の祭礼に参加し、市の文化祭に利用者の作品を出品しています。事業所の納涼祭やクリスマス会には、地域住民も招待しています。ハンドベルボランティアの来所や、子供神輿の立ち寄りがあります。認知症カフェに参加したり児童との交流もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	綾瀬市社会福祉協議会主催の認知症カフェにはウェイター、ウェイトレスとして参加させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政職員、地域包括支援センター職員、ご家族様から意見をいただき取り組み改善に活かしています。	会議には利用者家族、住民代表、市または地域包括支援センター職員、事業所職員が参加し、隔月に開催しています。事業所の運営報告の後に、参加者からの質問や提案に対応し、運営に活かしています。事業所行事との同時開催や外部評価結果も報告しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム連絡会に参加していただいております、そこでの意見交換や月に数回は市役所に利用者様と出向き、顔を合わせて話をする機会を作っています。	市高齢介護課への報告・相談、市社会福祉協議会の認知症カフェや子供食堂には、利用者同伴で出向いています。市グループホーム連絡会の立ち上げに協力し、ケアサービスの向上に取り組んでいます。また、市介護支援専門委員会にも出席しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な会議と全体研修の機会を設け、全職員の理解に向けて取り組んでいます。玄関の施錠に関しては、昨今の外部からの不審者への対応も含めて実地をしています。	法人の身体拘束廃止委員会の事例検討会に出席し、ホーム会議やユニット会議では更に拘束の無い支援の在り方について定期的に話し合っています。日中は玄関の施錠をせず、外出時にはチャイム音で職員が安全を確認しています。日々の散歩で近隣住民に顔と名前を憶えてもらい、不意の外出対応に備えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様に虐待防止も2月に1回以上全社的に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	3年間にわたり成年後見人、保佐人との連携から連携、支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用前、契約時だけでなく、契約後も不安や疑問点には誠意をもって可能な限り話し合っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常において来館されるご家族様と話をさせていただく機会と別に、相談窓口を設置しています。	利用者の意見要望は日常的に聞き、散歩や買い物の個別要望にも応じています。居室担当職員は「綾瀬小園通信」で生活の様子（医療、入浴、献立など）を写真を添えて伝え、返信封筒の同封で意見を聞いています。法人でも苦情相談窓口を設置し、アンケート調査も実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を実地しています。また普段から意見を言いやすい関係性を築くように心掛けています。意見はなるべく取り入れるようにしています。	法人のエリア会議では管理者が運営課題を討議しています。ホーム会議では職員が自由に意見を言える雰囲気作りを心掛けています。職員との個別面談では評価シートを用い、達成度に応じた待遇や勤務形態に配慮し、働きやすい職場環境を構築しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談と評価シートに沿って職員個々の勤務状況の把握と、仕事感、介護感の理解に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内にてそれぞれ経験年数、力量に分けた研修制度が発足した為、その活用を行っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会にて交流し、管理者による他ホーム訪問は行っています。また同法人の他ホームへの職員見学や、訪問は取り組んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は特にアセスメント含め各職員が関りを密にとり、情報の共有と、関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学、入居に至る段階で都度要望をお伺いし、その後も関係作りには努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用時には特に気遣い対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活の中でそれぞれの役割や利用者様同士の共同作業を提供し関係性の構築に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様にも本人を支援していく上での協力を求めることはしています。また、家族様と食事や定期的な外出をされている方も複数名いらっしゃいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由に来館していただくことも、定期的にご家族様と馴染みの集まりに外出される事も支援しています。	知人の来訪があり、職員が湯茶の支援をしています。2台の事業所専用車を活用し、馴染みの商店での買い物や好みの飲食店への外出も個別対応しています。銭湯に出かけたり、正月に家族と里帰りする人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同作業を行う中での利用者様同士の気遣いや関わり合いを持つようになっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	医療依存度が高くなり、転居された方にも定期的な訪問とその先の本人様の生活について家族の相談に乗るように支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各ユニットにて本人本位に意見を出し考えて支援しています。	入居前に見学してもらい、入居時のアセスメントで思いや意向を聞き取り、職員間で共有しています。日常的にはテレビを一緒に見たり、会話の中から聞き取っています。利用者の願いを「短冊」に書いてもらい、夢や希望を把握し、支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から入居前に、できるだけ詳しく情報をいただくようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタル測定や役割をもつていただく支援はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリング、アセスメント、ケアプランの更新をしている。	本人・家族から意向を聞き、介護計画を作成しています。介護計画と関係した経過記録をとり、3ヶ月ごとにサービス担当者会議で介護計画を見直し、家族の同意を得ています。心身の状態の変化があれば随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護記録、ケア日報を記録し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別の対応や状態変化時には柔軟に対応しています。外部受診に関しても極力協力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域自治会館での取り組みへの参加や、近隣のごみ拾い等参加させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医、家族と相談し適切な医療機関への受診支援を行っています。	全員が同意の上、協力医を主治医としており、毎月2回の訪問診療があります。従前の主治医へは職員が同行して協力しています。訪問看護師は入居者のバイタルチェックをし、便秘の人の排便や腹ねじり体操で健康の維持管理に努めています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師との連携、関係性は良好にて介護従事者、医療従事者間の相談支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も頻繁に伺い病院関係者との関係づくりや退院時の情報共有を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の説明においては、入居時だけではなく、定期的な来訪時にご家族様と現在の意向踏まえ共有しています。	入居時に「重度化および看取り介護にかかる指針」で説明しています。利用者が重度化した場合は、医療機関を交えて話し合っています。「食事が摂れなくなった場合」などの段階で、家族を中心に、医師、職員で事業所で、できることの役割分担について協議しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は連絡機関、方法は全職員把握しているが、応急手当に関しては実践できるように、繰り返し研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実地しています。地域にも災害時の救援依頼や近隣住民への呼びかけは機会があるたびに協力依頼はしています。	防災訓練では避難場所と避難想定時間を予め設定して実施しています。静養時や要介護者の参加対応も視野に入れています。防災研修では「わが身と入居者の身の安全」を心得として学んでいます。備蓄品リストを作成し、量と品質とを個々に管理しています。	防災訓練は事業所の単独主催です。訓練の反省点から、地域との連携や協力の課題（避難時の双方の役割分担とその責任制など）を会議などにおいて具体化することも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常識ある言葉かけ、相手の表情を確認した声掛けは行っています。	利用者への声掛け呼称は「○○さん」です。人格を尊重し、相手の顔をしっかりと確認しています。研修では入居者のみならず、職員自身のコンプライアンス（法令順守）も学んでいます。リビングルームの個人情報記録は裏返し、表の名前にはカバーをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	些細な事では、飲み物を選択していただいたり、本人の意思を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	意識している事ですが、業務としての記録等に時間を有し、その日をどのように過ごしたいか、までは至っていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容は毎日行っています。おしゃれに関してはイベント時には化粧や、マニキュア等はさせていただきますが、自身で化粧等行う支援には至っていません。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	少しずつそれぞれが役割として行っていると感じます。	調理は専門職員2名で担当しています。「キッチン衛生マニュアル」を整備しています。職員と共に配膳・下膳を行い、11月の誕生会のケーキ作りでは、複数の入居者がホイップクリームを混ぜたり、パン生地クリームやフルーツ飾りを乗せたりして参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の記録と様子、定期的な血液検査の結果や、往診医の意見も参考に支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後行っています。支援が必要な方には食前後のケアも行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	衛生と本人の力に応じた排泄対応は行っています。	排泄の基本はトイレとしています。排尿後のシャワレット使用、皮膚状態の観察なども欠かさず行っています。現状トイレの自立に繋いでいますが、頻尿（数十回におよぶ）の利用者に関しては、心因ストレスが原因として、その対策を全員で話し合っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝のヨーグルトや水分摂取の工夫、排便状況の確認は医療機関とも連携し行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望やタイミングの必要性は理解しているが、家庭的な入浴環境、設備がゆえに二人で対応させていただいている方もいる為、曜日で入浴していただいているが、希望や活動後の発汗時間伺い入浴していただくこともある。	入浴は週2回程度です。決まった曜日と時間にこだわる人には、要望に応じています。「転倒事故予防マニュアル」を整備しています。2人介助では、準備する声かけに「立ち上がりませう」や、かけ声「1・2・3」など2人のタイミングを合わせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境整備は行っています。日中の様子によって声掛け等は行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診医、薬局、看護師と情報共有し、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を持っていただく事は大切にしています。日常家事でも本人に感謝し、気分の落ち込みや不安の軽減に努め、散歩や外出で気分転換を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	雨天でなければ、日常的な外気浴を大切にしています。全員ではありませんが、行政への書類提出や、公共機関へ行くときには利用者様をお誘いし同行することは行っています。	買い物外出には、近隣のコンビニエンスストアなどに出かけています。季節感や五感刺激を求めてほぼ毎日、外気浴をしています。菜園の手入れや、ベランダからの近隣農園の遠景を楽しんでいます。また玄関先の広場では、椅子を持出し湯茶飲みをしています。日除け帽子も常備しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを預かりし、買い物時にはお小遣いからお渡しすることもあります。基本的には家族様に管理していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、本人様にかけて頂く事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングの写真や、飾りは月々に変化があるようにしています。掃除も毎日おこない居心地良い空間作りは行っています。	リビングの壁面には、事業所主催の季節ごとの行事写真を掲げています。入居者の笑顔の表情は室内を明るくし、会話に繋いでいます。玄関には外出や外気浴のため、麦わら帽子と目立つベストを配置しています。リビングの室温・湿度は目視で調整し、室内の明るさはカーテンの開閉で調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	生活のご様子で、食事の席や、ソファの配置等時折変化をつけさせていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族と相談しながら本人の使い慣れたものを持っていただいています。	エアコンやクローゼットなどを備えています。入居者は概ねベッドを使用していますが、床にマットを敷き、布団で生活している人もいます。使い慣れた整理ダンスやテレビを置き、壁には家族写真やぬり絵、色紙、書道などの作品を飾り、居心地良く生活しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒リスクの軽減に向けた環境整備、トイレの場所や、自室の名前、写真等活用し工夫しています。		

事業所名	愛の家グループホーム綾瀬小園
ユニット名	にじ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼にて唱和し、実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の外気浴や散歩にて近隣住民との挨拶や馴染みの関係性はできています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	綾瀬市社会福祉協議会主催の認知症カフェにはウェイター、ウェイトレスとして参加させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	行政職員、地域包括支援センター職員、ご家族様から意見をいただき取組み改善に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	グループホーム連絡会に参加していただいております、そこでの意見交換や月に数回は市役所に利用者様と出向き、顔を合わせて話をする機会を作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な会議と全体研修の機会を設け、全職員の理解に向けて取り組んでいます。玄関の施錠に関しては、昨今の外部からの不審者への対応も含めて実地をしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様に虐待防止も2月に1回以上全社的に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	3年間にわたり成年後見人、保佐人との連携から連携、支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用前、契約時だけでなく、契約後も不安や疑問点には誠意をもって可能な限り話し合っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常において来館されるご家族様と話をさせていただく機会と別に、相談窓口を設置しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談を実地しています。また普段から意見を言いやすい関係性を築くように心掛けています。意見はなるべく取り入れるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談と評価シートに沿って職員個々の勤務状況の把握と、仕事感、介護感の理解に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内にてそれぞれ経験年数、力量に分けた研修制度が発足した為、その活用を行っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会にて交流し、管理者による他ホーム訪問は行っています。また同法人の他ホームへの職員見学や、訪問は取り組んでいます。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時は特にアセスメント含め各職員が関りを密にとり、情報の共有と、関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学、入居に至る段階で都度要望をお伺いし、その後も関係作りには努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用時には特に気遣い対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活の中でそれぞれの役割や利用者様同士の共同作業を提供し関係性の構築に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様にも本人を支援していく上での協力を求めることはしています。また、家族様と食事や定期的な外出をされている方も複数名いらっしゃいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由に来館していただくことも、定期的にご家族様と馴染みの集まりに外出される事も支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共同作業を行う中での利用者様同士の気遣いや関わり合いを持つようになっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	医療依存度が高くなり、転居された方にも定期的な訪問とその先の本人様の生活について家族の相談に乗るように支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各ユニットにて本人本位に意見を出し考えて支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から入居前に、できるだけ詳しく情報をいただくようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のバイタル測定や役割をもつていただく支援はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリング、アセスメント、ケアプランの更新をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の介護記録、ケア日報を記録し共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別の対応や状態変化時には柔軟に対応しています。外部受診に関しても極力協力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域自治会館での取り組みへの参加や、近隣のごみ拾い等参加させていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医、家族と相談し適切な医療機関への受診支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師との連携、関係性は良好にて介護従事者、医療従事者間の相談支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も頻繁に伺い病院関係者との関係づくりや退院時の情報共有を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の説明においては、入居時だけではなく、定期的な来訪時にご家族様と現在の意向踏まえ共有しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応は連絡機関、方法は全職員把握しているが、応急手当に関しては実践できるように、繰り返し研修を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防災訓練を実地しています。地域にも災害時の救援依頼や近隣住民への呼びかけは機会があるたびに協力依頼はしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常識ある言葉かけ、相手の表情を確認した声掛けは行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	些細な事では、飲み物を選択していただいたり、本人の意思を伺うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	意識している事ですが、業務としての記録等に時間を有し、その日をどのように過ごしたいか、までは至っていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容は毎日行っています。おしゃれに関してはイベント時には化粧や、マニキュア等位はさせていただきますが、自身で化粧等行う支援には至っていません。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	少しずつそれぞれが役割として行っていると感じます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量の記録と様子、定期的な血液検査の結果や、往診医の意見も参考に支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後行っています。支援が必要な方には食前後のケアも行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	衛生と本人の力に応じた排泄対応は行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝のヨーグルトや水分摂取の工夫、排便状況の確認は医療機関とも連携している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望やタイミングの必要性は理解しているが、家庭的な入浴環境、設備がゆえに二人で対応させていただいている方もいる為、曜日で入浴していただいているが、希望や活動後の発汗時間伺い入浴していただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	環境整備は行っています。日中の様子によって声掛け等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診医、薬局、看護師と情報共有し、確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割を持っていただく事は大切にしています。日常家事でも本人に感謝し、気分の落ち込みや不安の軽減に努め、散歩や外出で気分転換を支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	雨天でなければ、日常的な外気浴を大切にしています。全員ではありませんが、行政への書類提出や、公共機関へ行くときには利用者様をお誘いし同行することは行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを預かりし、買い物時にはお小遣いからお渡しすることもあります。基本的には家族様に管理していただいています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望があれば、本人様にかけて頂く事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングの写真や、飾りは月々に変化があるようにしています。掃除も毎日おこない居心地良い空間作りは行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	生活のご様子で、食事の席や、ソファの配置等時折変化をつけさせていただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族と相談しながら本人の使い慣れたものを持っていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	転倒リスクの軽減に向けた環境整備、トイレの場所や、自室の名前、写真等活用し工夫しています。		

平成30年度

## 目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム綾瀬小園

作成日： 平成 31年 2月 10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員（新人職員）の育成の取り組みを見直していくこと。特に身体介助を要する状態にある方への対応に課題がある。	共通して安心、安全な支援ができています。	外部研修や社内研修を通じて、支援技法の取り入れ習得を行う。	12ヶ月
2	2	近隣散歩や限られた近隣住民の定期的な来館はあるが、利用者様の地域の活動への参加が限りがある現状。	生活されている利用者様が、地域資源として様々な活動に参加できる。	積極的に地域イベントに参加。ホームの雰囲気作りを見直し、来館者との継続した交流を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月